

第4回全国スポーツ少年団剣道交流大会宮城県予選会開催要項

- 1 趣 旨 剣道を通してスポーツ少年団の組織の強化と活性化を図り、さらに各団の友情と親睦を深め健全な青少年の育成を図ることを目的とする。
- 2 主 催 (公財)宮城県スポーツ協会宮城県スポーツ少年団
- 3 主 管 宮城県剣道スポーツ少年団連絡協議会
- 4 後 援 (一財) 宮城県剣道連盟 宮城県教育委員会
- 5 大会日時 令和4年1月8日(土曜日)
午前の部(小学生団体) 午後の部(中学生男女個人)
8:00 開場・受付 12:30 入場・受付
8:30 審判監督会議 13:00 監督会議
9:00 開会式(簡略化する) 13:30 試合開始(予定)
(午前の部に中学生、午後の部に小学生は入場する事ができない)
- 6 大会会場 セキスイハイムスーパーアリーナ(グランディ・21)
〒981-0122 宮城県利府町菅谷字館40-1
- 7 参加資格 令和3年度スポーツ少年団登録をしている指導者および団員で、スポーツ安全保険に加入しているもの。
- 8 申込種目及び申込人員

(1) 小学生団体の部

区分	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
学年	小4	小5～6	小5～6	小5～6	小5～6
性別	男女	女子	男子	女子	男子

※ 上表の学年は当該年度の4月1日現在の者とする。なお、該当者がいない場合は、学年下の者が上位の学年区分に出場してもよいが、小学校4年生以上とする。ただし、男女の変更は認めない。

※ 区分、学年、性別を確認し、失格のないよう注意のこと。

※ 原則として、同一市町村単位、又、単位団で選出したチームであること。ただし、区分(学年)によって人員に不足が生じた際は、他市町村単位との編成出場を認めるが、優勝しても全国大会規定に従い、同大会への出場は出来ないことを了承のうえ、申込願います。なお、宮城県代表チームは、下位のチームの繰り上げとする。

※ 1単位団から2チームまで出場を認める。

(2) 中学生個人の部

個人戦とし、1団体より男子5名 女子5名の10名までの出場を認める。

9 試合方法

(1) 試合は全日本剣道連盟、試合・審判規則、同細則による。

併せて「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン（令和3年8月2日改定）」の【暫定的な試合・審判の方法】に準ずる。

(2) 小・中学生ともトーナメント方式で行う。

(3) 試合時間、小学生2分（但し決勝戦のみ3分）、中学生3分とする。

(4) 勝負の決しない場合は、団体の部は引き分け、個人の部は延長戦を2分ずつ区切り、勝負の決するまで行う。

(5) 団体の部において、勝者数、取得本数が同じ時は、中堅、副将、大将から抽選により代表者を決し、1本勝負を行う。

(6) 組み合わせについては事務局に一任されたい。

10 表彰 各部門、第3位まで賞状並びに副賞を贈る。

※ 優勝団体を全国大会出場団体とし、本大会と同じメンバーで全国大会に参加すること

※ 中学生は、男女とも優勝者を全国大会出場選手とする。

11 申込期限 令和3年11月5日（金）まで期日厳守

プログラム作成上、期日後の申込は受け付けない。

選手決定次第、早急に送付をお願いします。

郵送・FAXも可

12 申込先 〒989-2423 宮城県岩沼市押分字西土手65番1 楡県南開発内

宮城県剣道スポーツ少年団連絡協議会 事務局 田村和也宛

Tel 0223-24-0394 FAX 0223-29-2456

13 参加料 小学生団体の部 1チーム 5,000円

中学生 個人の部 1人 1,000円

【納入方法】

(1) 申込書に同封のうえ現金書留で上記申し込み先へ郵送。

(2) 下記指定口座へ振り込みにて納入。

【振込先】 七十七銀行 県庁支店（店コード 206）

普通口座 **5008431**

名 義 宮城県剣道スポーツ少年団協議会

会計 丹野 伸也

1 4 協力関係 (1) 4 試合場で実施(各試合場係り 5 名)

上記につき別途連絡致します。

- 1 5 その他
- (1) 選手は「団体名・姓」を記した名札、スポーツ少年団団員章を付けること。(厳守)
 - (2) 紅白の「目印」は持参のこと。
 - (3) 開会式の際は少年団旗を持って各自の試合場に整列のこと。
 - (4) 審判・監督会議は、当日会場にて行う。
 - (5) 競技中における負傷については、応急措置を施すが、これ以外の責任は負わない。
 - (6) 当日 1 回戦までの選手の変更は認めるので審判主任に申し出ること。(1 回戦以降は認めない)
但し、中学生男女個人に関しては変更を認めない。
 - (7) 剣道具、竹刀は試合場に放置せず各選手が管理すること。
 - (8) 駐車場は、指定の駐車場を使用してください。
 - (9) 他利用者の事も考慮し、利用のマナーを守ること。
 - (10) 試合場には選手・監督・役員以外は立ち入り禁止とする。
監督は原則として、審判員に準ずる服装とする。
 - (11) ごみの持ち帰りを徹底してください。
 - (12) 団体の部にはオーダー表を作成し、受付後、各試合場に提出すること。

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
27cm	団体名				
	13 cm	//	13 cm	//	//
					13 cm
	全長 78 cm				

- (13) 中学生男女個人は、開会式前までに、各試合場に出席を届け出ること。
- (14) 申込用紙の連絡先（緊急連絡先）には、直接連絡が取れる番号の記入をお願いします。

1 6 全国大会の出場について

- (1) 小学生団体の部出場：優勝団体 1チーム
(本大会優勝メンバー)
- (2) 中学生個人の部出場：男子個人 : 優勝者
女子個人 : 優勝者
- (3) 監督 1名：小学生団体優勝チーム監督
(スポ少認定指導者)

※小学生・中学生とも、該当者は、強化稽古会並びに全国大会に出場することを必須条件とするので、申込責任者は確認のうえ出場させてください。

※強化稽古会の詳細については、決定後、通知します。

1 7 全国大会開催日時・会場

令和4年3月26日～28日 高知県香南市 県立青少年センター
(新型コロナウイルス感染症の状況により、中止となる場合がある。)

※開場時間・開会時間に変更が生じた場合には、協議会事務局より連絡いたしますので、ご協力をお願い致します。

会場使用上の注意

当日は一般の来館者がいますので、以下の点に注意し、大会に参加してください。

1. 使用した場所の後片付けは、各団体で、責任を持って片付けてください。
2. ごみは、持ち帰り厳守をお願いします。
3. 通路等、下足場所と、上履き場所をしっかりと守ってください。
4. 通路・屋外にシートを敷いての使用は禁止します。

剣道を修練する者・剣道に携わる者として、恥じないような行動をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策について

大会参加には要項のほか、「宮城県スポーツ少年団種目別交流大会 新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン（令和2年7月18日作成版）」及び全剣連「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン（令和3年8月2日改定）」に基づき、下記の感染予防対策を行うものとする。申し込みにあたっては熟読し対応・遵守すること。また、今後の感染状況の悪化により、大会が中止となる場合がある。

1. 引率者（各団体3名まで）を除き、応援者（選手以外の団員・父兄）を入れない「無観客試合」とする。
(引率者の人数は、午前の部・午後の部それぞれで計上してよいが、選手同様に入れ替わるものとする。
監督は引率者に含めなくてよい。)
試合当日の受付時には、別紙「様式1号（同意書）・様式2号（参加者名簿）」による情報開示の同意及び健康状態の申告を行い、体調不良時の無理な参加は認めない。また、体調不良者は試合の出場にかかわらず、会場内に入らないこと。（様式は主催者が保管し、期限経過後に適正に廃棄されます）
参加者名簿に記載のない者は、入場することができない。
2. 練習時、試合時には「面マスク」と「マウスシールド」を必ず着用すること。（マスクは口と鼻を完全に覆うこと）また、試合以外の待機時も適宜マスクをすること。
(監督・引率者は予備の面マスク・マスクの準備にご配慮ください)
3. 可能な限り、剣道着に着替えて来場すること。(更衣室での密状態の回避)
4. 会場内に消毒液を配置するので、こまめに手指を消毒し、手洗いもすること。(タオル等を持参する)
5. 従来から応援は拍手のみとされているが、大きな声を出しての応援は厳に慎むこと。(飛沫防止)
6. シート等を敷いて場所を取り、お茶のみ等を禁ずる。(密状態の回避)
7. 他の参加者等との距離を1m以上確保するよう努めること。(密状態の回避)
8. 剣道具、竹刀、タオル等は共用しない。また、飲料等を回し飲みしないこと。
9. 水分補給の際も、周囲となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。
10. 大会当日は、ガイドラインに基づく、参加同意書および参加者名簿のご提出をお願いします。
様式は、宮城県スポーツ協会のホームページからダウンロードできます。
https://msports.msfp.jp/index_download/#10
11. 大会終了後2週間以内に、新型コロナウイルス感染症を発症したときは、直ちに下記まで報告すること。
(宮城県スポーツ少年団本部 宮城郡利府町菅谷字館 40-1 TEL 022-349-9656)
上記の対策は、現段階で得られた知見等に基づき作成されており、今後の知見の集積及び感染状況を踏まえて見直すことがあり得る。指導者は、参加選手によく理解させるようご指導ください。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法

【趣旨】

1. 主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインの遵守（感染予防）
2. 「つば（鏢）競り合い」および意図的な「時間空費」や「防御姿勢による接近する行為」の解決
 - ・これまでの試合は試合時間の3分の2以上が、つば（鏢）競り合いである。これを無くして、立ち会いの間合からの攻め合いを中心とした試合展開へ。
 - ・剣道の試合にとって「勝負」の要素は大事であるが、姑息な勝負の仕方の是正。反則ギリギリの勝負ではなく真っ向から勝負をする態度を養う。
 - ・つば（鏢）競り合い問題は試合者の態度や心の問題が大きく影響し、規則だけで裁くのは困難である。試合者と審判員が共通理解し、一体となって、良い試合の場を醸成する。

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

1. 試合者はつば（鏢）競り合いを避ける。接触した瞬間の引き技及び体当たりからの技（発生を含む）を積極的に出す。つば（鏢）競り合いになった瞬間、技が出ない場合にはただちに積極的に分かれる。試合者は審判員の「分かれ」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。
2. 意図的な時間空費や防御姿勢（勝負の回避）による相手に接近するような行為は、規則第1条に則り反則を適用する。
3. 試合者は、分かれる場合は主審の「分かれ」の宣告、あるいは試合者双方で分かれる場合にかかわらず、剣先が完全に触れない位置まで互いに分かれる。
4. 分かれる場合は剣先を開いたり、下げて分かれぬ。
5. 分かれる場合は双方がバラバラに下がらない。双方同じ気位で互いの鎧を削るようにして分かれる。
6. 相互に分かれようとしている途中で技を出さない。この場合は技を出しても有効打突とはしない。一方が分かれようとしている場合に追い込んで打突した場合や別れようと思わすかけて打突する行為は反則を適用する場合があります。また、分かれる途中で相手の竹刀を「叩いたり」「巻いたり」「逆交差」をしない。（審判員は状況や原因を踏まえた上で合議により判断する）
7. マスクとシールドの着用
 - マスクは、口鼻を隠し、正しく装着する。
 - シールドに関しては、口を覆うものは必須とし、目を覆うものは自由とする。

※選手が理解したうえで、試合が出来るようご指導をお願いします。